Un petit cafe de Kobe 2003 その⑤

鯉川筋に出現した街の中の書斎

信時　哲郎

CORENOZ（コリノズ）
神戸市中央区中山手通四―一―十一
TEL　078（322）0510
営業時間　12:00～20:00
定休日　火曜
http://www.hm.h555.net/~kps/CORENOZ/

自分の書斎を持つのが夢だという人は多い。では、その夢を実現した人たちが、はたして書斎で読書三昧の日々を送っているのかというと、案外、送っていないのではないかと思う。なぜなら自宅というのは、とっても「くつろげてしまう」からだ。

なにせ自分の家なのだから、なんでも飲むことができるし、食べることもできる。音楽もかけ放題だし、テレビだってビデオだって見ることができる。どんなかっこうをしても誰に咎められるわけでもないし、昼寝だってできる。そう、かくして「自宅の書斎でできない唯一のことは読書だ」という逆説にたどり着く。そして「書斎は街にあるべきだ」という真理を発見するわけである。

そんな人に訪ねてもらいたいのが鯉川筋と中山手通が交差するところに二〇〇二年八月にオープンしたTEA&LIBRARY　CORENOZ。

もちろん自宅から本を持ち込むのもいいけれど、ついつい壁面に並んだ画集や写真集に手が伸びて、気がつくと小一時間が過ぎている……　CORENOZは、そんな不思議なカフェだ。

オーナーの池田さんは、建築士として充実した日々を過ごしていたが、いつしか自分の店を持ちたいと思うようになった。作るなら紅茶専門の店かな、などとぼんやり考えているうちに、神戸の街には紅茶専門のカフェがどんどんできてきた。どこの店とも違うもの、自分の店にしかできないものを見つけないと……　カフェ構想は、ここで振り出しに戻ってしまった。

紅茶以外で、自分に好きなものがあっただろうか。そこで池田さんは、美大時代、図書館で画集や写真集を見るのが好きだったことを思い出し、ビジュアルブックに限定した「書斎な喫茶」というアイディアが生まれた。

では、どこに店を出そう。自転車で神戸の街をあちこち走ること二年。やっと見つけたのがこの場所だった。街のど真ん中では、とても画集や写真集をゆっくり眺める気にはなれないだろうし、かと言って街から離れすぎてしまってもカフェは機能しない。そこで喧噪と静寂とのバランスがとれている場所として鯉川筋が浮かんできたのだという。

運良くテナントを募集しているスペースを見つけると、あとはお手の物。建築士の経験と人脈とカンを頼りに、計画はどんどん進んでいった。もっとも今まで手がけていた住宅建築と商業建築には大きな違いがあり、戸惑うこともあったというが、グリーンの壁面とふんだんに用いられた木の質感はうまくマッチしており、上質な書斎空間を演出してくれている。

イタリア語か、はたまたギリシャ語か？　と思わせる店名の由来を聞いてみると

「サリンジャーの小説に出てくる歯磨きの会社の名前からです……」と、答えることにしてるんですけど、本当は別の理由があるんです。なんだと思います？」

鯉川文化の仕掛け人は、そう言っていたずらっぽく笑った。

外国の絵本は、同じ鯉川筋で友人夫妻の経営する Fabulous Old Book で仕入れたもの。

書棚に向かって並べられた椅子は、カフェというよりも図書館の雰囲気。

紅茶（各種）　ポット・五〇〇円
　　カップ・三八〇円
プレーンチャイ　四〇〇円
ホームメイドケーキ　三五〇円
キーマカレー　六五〇円
ピラフプレート　六五〇円
など